

校長だより

福津市立福間東中学校
校長 猪股 清貴
平成 28 年 4 月 22 日 No6

今私たちにできること

「大雨、土砂崩れへの警戒続く～熊本地震 1 週間揺れ 770 回～」 「大雨被災者追い打ち」
いずれも 4 月 22 日（金）の西日本新聞の朝刊の見出しです。社会面には次のような記事が載っていました。

孫との再会を心待ちにしていた祖母、教師の夢を抱いていた大学生、がまだしもん（働き者）の母親……。熊本県を直撃した 2 度の激震により 48 人が命を奪われ、2 人の行方がまだ分かっていない。14 日の前震から 1 週間たった 21 日、吹き荒れる風雨が創作活動を阻み、被災者は土砂崩れなど新たな自然災害におびえ、避難所からの移動を余儀なくされた。（中略）14 日の前震で大きく自宅が揺れ、母親たちは外の車で寝ていた。「あの子にも今日までは外で寝なさいって言ってたんだけど。」母親は悔やむ。部屋は 1 階で、つぶれた白いベッドで見つかった。布団をはぐと、本当に眠っているような表情で、母親はまだ温かい顔を両手で覆いながら「起きて、起きて」と声をかけ続けた。「体も顔にも、傷一つなかった。あまりにも穏やかな顔だった。」（中略）「結婚はまだまだ、興味がなかったみたい。家の手伝いをしてくれてて安心だった。親より先に死んだら駄目。私も娘の分まで生きないといけないから。」母親は涙をこらえ、下を向いた。

4 月 22 日(金)西日本新聞社会面から

学校では 3 月 11 日に東北大震災で犠牲になられた方々の御冥福を祈って全校生徒で黙とうをささげただけでした。

こんな時、直接被害を受けなかった私たちに何ができるのでしょうか。今回の生徒会の取り組みは早かった。自分たちで何ができるかを真剣に話し合い、考えました。

「支援物資を送ろうか。いや、本当に必要なものじゃないと。募金を集めてはどうだろうか。でも、お金は被災者に届くまでに時間がかかるし。でも、それで必要なものを購入してもらえばいいし。そう言えば、福津市の市役所で募金を受け付けているらしいよ。やるなら早い方がいいし、早速朝の挨拶運動の時にみんなで呼び掛けようか」



きっと、こんな話し合いが生徒会の中で行われたのではないのでしょうか。大切なのは、生徒会が自らの意思で動き出したということです。写真は朝の募金活動の様子です。袋いっぱいの 1 円玉を持ってきてくれた人もいました。今日持ってこれなくても、募金活動の様子を見て「来週持ってくるね」と声をかけている人もいました。みんなの善意が

広がっています。募金活動は来週金曜日まで行われます。東中学校の気持ちが被災地に届くように願っています。

